

乙 貞

第117号 通巻21巻 第2号

2001年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎・fax 077-585-4397

〒524-0212

守山市服部町2250番地

未だ、梅雨明けでもないのに、毎日30度を超える暑い日が続いています。調査現場では、湯気が立ちのぼる状態ですが、皆、がんばって調査に励んでいます。

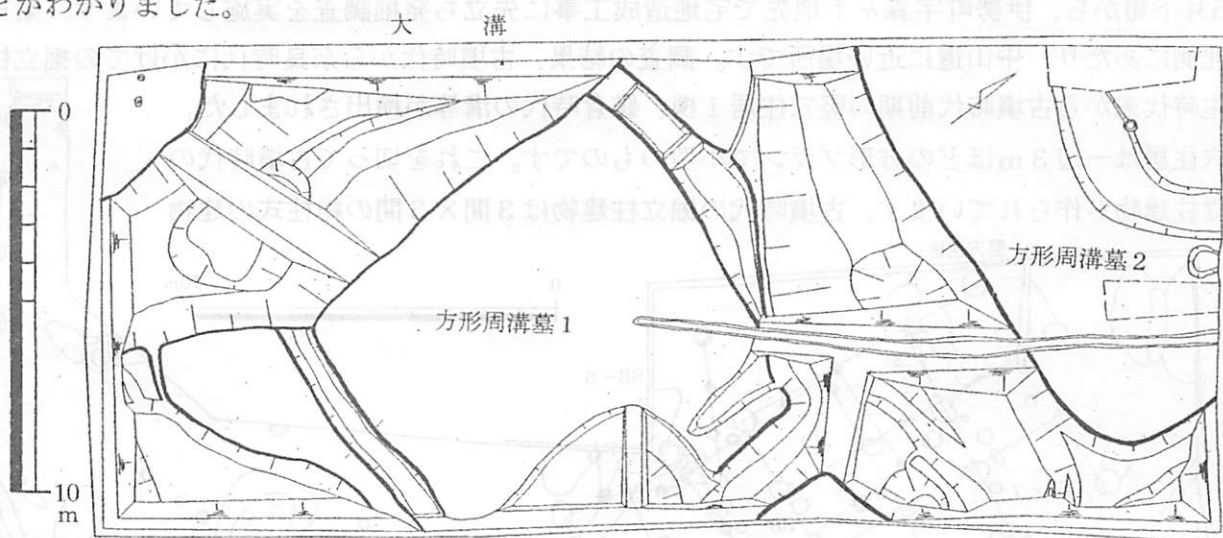
☆発掘調査だより☆

1. 播磨田東遺跡（第10次）の調査

播磨田町字二ノ坪の水田地において、宅地造成工事に先立つ調査を実施しました。その結果、方形周溝墓、大溝、土坑、ピットを検出しました。調査区の中央で検出した方形周溝墓1は、台状部が南北10m、東西10m。周溝は幅約1m、深さは浅く西辺を除いて約20cmを測ります。この方形周溝墓1は西辺を大溝（周溝の可能性もあり）に、北辺は方形周溝墓2に切られています。方形周溝墓2は、南端のコーナーを含む二辺を検出しました。周溝は最も広い所で6m、深さは1.2mを測ります。両方形周溝墓とも遺物は少量でしたが、弥生中期の土器が出土しています。大溝は南北方向に走り、幅6m、最も深いところで1.1mを測ります。北壁に近い位置で弥生中期の高杯や甕が出土しました。

ここより北側へ100mの所では、同時期の円形周溝墓が検出されていることから、集落内で二種類の造墓形態があることがわかりました。

（畑本）



2. 二町鏡遺跡（第15・16次）の調査（二町町）

個人住宅建築に伴い調査を実施しました。その結果、13世紀～14世紀代の溝や柱穴、土坑を検出し、土師器小皿、黒色土器碗、常滑焼・信楽焼の鉢や甕などの遺物が出土しました。一帯は中世の集落遺跡であり、検出した遺構は中世の屋敷地の一部と考えられます。

（小島）

3. 金森東遺跡（第30次）の調査

6月から道路建設に伴い、山柿団地の南隣で調査を始めました。現在のところ、溝と浅い落ち込みの広がりが見つかっています。これらの遺構は、出土した土師器、須恵器から古墳時代後期のものであると考えられます。調査は今年度いっぱい行われる予定ですので、順次報告していきたいと思います。

（大岡）

目 次

☆発掘調査だより☆

1. 播磨田東遺跡

2. 二町鏡遺跡

3. 金森東遺跡

4. 古高経田遺跡

5. 下之郷遺跡

6. 伊勢遺跡

1p

2p

☆文化財の窓☆

「方形周溝墓に

埋葬された人」

3p

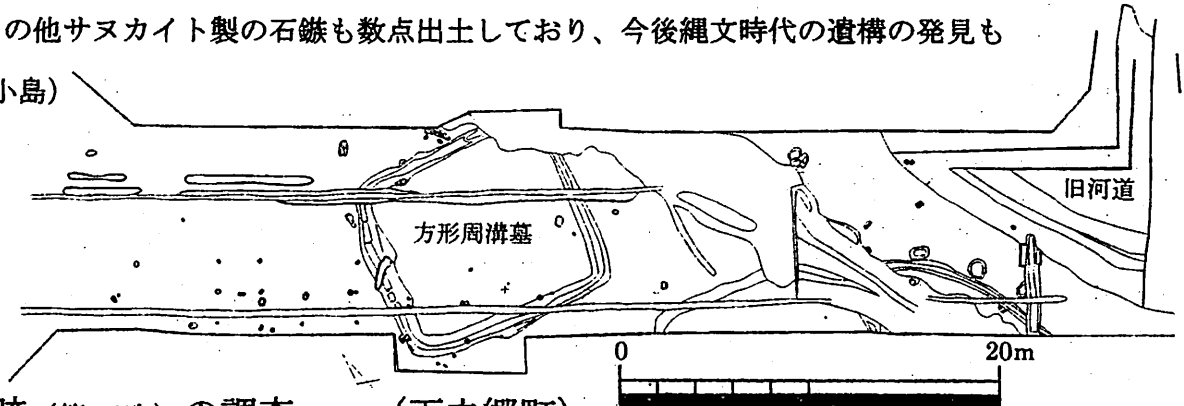
伊勢遺跡現地説明会

文化財行事お知らせ

4p

4. 古高・経田遺跡の調査 (今宿町)

区画整理工事に先立ち、昨年度から引き続き調査を実施しています。これまでに弥生時代末～古墳時代前期にかけての方形周溝墓や平安時代後期の建物跡などを検出しています。今年度は新たに古墳時代の旧河道や平安時代の溝などが見つかっています。また、一辺が10mを測る大型の方形周溝墓も1基検出しています。周溝から出土する土器が少なく、年代は明確ではありませんが、おおむね弥生時代末～古墳時代前期頃とみられます。この他サヌカイト製の石鏃も数点出土しており、今後縄文時代の遺構の発見も期待されます。(小島)



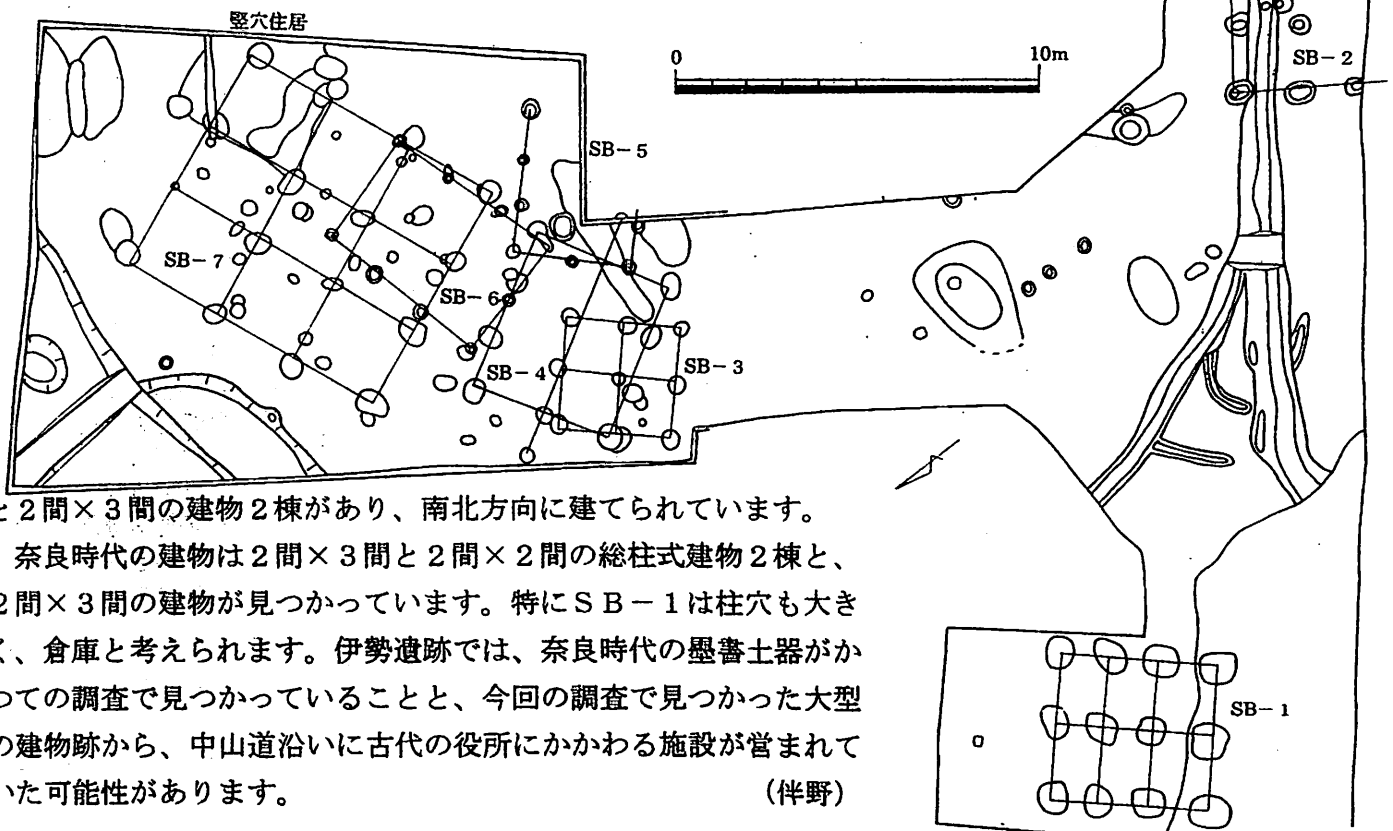
5. 下之郷遺跡 (第46次) の調査 (下之郷町)

下之郷町字久戸で宅地造成工事に先立ち発掘調査を実施しています。今回は集落跡の西端部と推定される場所を調査しています。現在のところ、大溝や土壌、柱穴などが検出されています。弥生時代の環濠集落のどのような場所にあたるのか、今後の調査が期待されます。(川畑)

6. 伊勢遺跡 (第71次) の調査 (伊勢町)

5月下旬から、伊勢町字森ヶ下地先で宅地造成工事に先立ち発掘調査を実施しています。栗東町大宝神社の北側にあたり、中山道に近い場所です。調査の結果、古墳時代から奈良時代にかけての掘立柱建物7棟、弥生時代末から古墳時代前期の竪穴住居1棟、鎌倉時代の溝等が検出されました。

竪穴住居は一辺3mほどの方形プランで小型のものです。これを切って古墳時代の掘立柱建物が作られています。古墳時代の掘立柱建物は3間×3間の総柱式の建物



と2間×3間の建物2棟があり、南北方向に建てられています。

奈良時代の建物は2間×3間と2間×2間の総柱式建物2棟と、2間×3間の建物が見つかっています。特にSB-1は柱穴も大きく、倉庫と考えられます。伊勢遺跡では、奈良時代の墨書土器がかったの調査で見つかったことと、今回の調査で見つかった大型の建物跡から、中山道沿いに古代の役所にかかわる施設が営まれていた可能性があります。(伴野)

☆文化財の窓☆

方形周溝墓に埋葬された人

方形周溝墓の埋葬者を推定するのは簡単なことではない。棺がほとんど発見されていない守山の方形周溝墓では、男女の区別や年齢、どのような人が埋葬されたのかは、ほとんど不明な状況だと言わざるを得ない。守山市内では服部遺跡や吉身西遺跡などで総数500基近くの方角周溝墓が検出されており、検討するのに十分な資料数はあるのだが、相変わらず資料の制約（棺が検出されない、骨格等が残っていない、など）も多いのである。

下之郷遺跡の評価に関わって「下之郷遺跡のムラ人の墓はどこにあるのか」という問題が大変重要である。以前から、環濠の外側およそ

600mの地点に分布する吉身西遺跡、金森東遺跡、石田遺跡、八ノ坪遺跡、今市遺跡、さらに酒寺遺跡の方角周溝墓など、下之郷の周辺にはたくさんの墓域が存在することが分かっており、下之郷ムラの墓であると思われる。吉身西遺跡の28基をはじめ、野洲川流域の方角周溝墓群は、大きく2列に並び、それぞれの群がさらにいくつかの小群に分かれるという特徴を有している。この吉身西遺跡の方角周溝墓が、埋葬者推定の糸口になる可能性があると思われる。

吉身西遺跡の方角周溝墓

2列に並んだ列のあり方と、列の端にある墓の形状が問題となる。列の方向が少しずれ、しかも端には独立した方角周溝墓（他の墓は周りの溝が連続している）があることから、端の墓を造ってから3～4基の小群を形成したのではないかと考えるに至った。この場合、造墓の契機は家族の長の死である蓋然性が高いと思われるが、その死が何によったものかを考える材料として、吉身西遺跡方角周溝墓の周溝から出土した石鏃を重要視したい。近くには集落跡がないことから、石鏃が偶然に溝に埋もれたとは考えにくい状況である。吉身西遺跡の方角周溝墓は盛土が削平されて台状部とその周囲の溝だけが残存しており、埋葬主体部も削平された状態である。石鏃が偶然に溝に埋もれることが考えにくい場合、それが埋葬主体部内に存在していた可能性が高い。ここでは、主体部の石鏃が死体に刺さっていたものと解釈するものである。

下之郷遺跡は弥生時代中期後葉の環濠集落で、石剣、石鏃、石戈、銅剣、銅戈の柄、弓、盾などの武器武器が多い遺跡である。また、集落内部の状況も環濠際に門衛の守備施設と考えられる建物（掘立柱建物、壁立式平地建物など）が分布しており、戦いのあった遺跡と考えられている。この戦いの戦死者の墓の一つとして、吉身西遺跡の方角周溝墓が存在した可能性が高いのではないだろうか。下之郷ムラの住人か或いは、下之郷ムラに攻め込んだ人が戦死した可能性があり、その墓の一つは吉身西遺跡にあったと。（山崎）



吉身西遺跡の方角周溝墓と石鏃
(石鏃はS=1/2, 上:第8号墓 下:第21号墓出土)



周辺遺跡地図



☆伊勢遺跡現地説明会のご案内☆

発掘によりで紹介しました伊勢遺跡の発掘現場の現地説明会を下記により実施いたします。多数ご参加ください。

日時：7月14日(土) 午前10:00～(小雨決行)

場所：伊勢町字森ヶ下地先 伊勢遺跡発掘現場

(大宝神社北側)

主催：守山市教育委員会生涯学習課

(☎077-582-1142)



『古代の村』岩波書店 1985年から
倉庫の推定図



関係機関の文化財行事
お知らせ

☆県立安土城考古博物館の催し☆

『20世紀近江発掘ベスト10展』(埋蔵文化財特別展示会)

会期：7月20から9月30日まで(午前9:30～午後5:00)

休館日 月曜日(8月13日・9月24日を除く)、祝日の翌日

入館料 大人：660円 学生：500円 子供：350円

* この展示会では、下之郷遺跡や伊勢遺跡の出土品も展示されます。

(関連行事) 連続歴史フォーラム「近江の遺跡って結構すごいんじゃない」(仮題) 〈無料〉

7月22日(日) 「前方後方墳は近江で出現したのか—亀塚古墳・小松古墳・熊野本6号墳—」

講師 石野博信氏(徳島文理大学教授) 細川修平氏((財)滋賀県文化財保護協会)

7月29日(日) 「紫香楽宮跡中心部、ついに現れる」

講師 栄原永遠男氏(大阪市立大学教授) 畑中英二氏((財)滋賀県文化財保護協会)

8月12日(日) 「水辺の縄文人—栗津貝塚と里浜貝塚—」

講師 岡村道雄氏(文化庁主任文化財調査官) 伊庭 功氏((財)滋賀県文化財保護協会)

8月19日(日) 「邪馬台国前夜の近江—下之郷遺跡と伊勢遺跡—」

講師 森岡秀人氏(芦屋市教育委員会) 辻川哲朗氏((財)滋賀県文化財保護協会)

9月23日(日) 「古代都市近江国府の実像—国庁・惣山遺跡・青江遺跡—」

講師 田中久雄氏(大津市教育委員会) 平井美典氏((財)滋賀県文化財保護協会)

* 時間は、いずれも午後1時30分～3時30分の予定です。

問い合わせ先： 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 蒲生郡安土町下豊浦 6678

(☎0748-46-2424)

—編集後記—

暑い夏、毎年の現場で日焼けがたまり、目の下あたりのシミが特に目立ちます。話は変わりますが、埋文センターの仕事を終えて帰宅する際、うす暗闇でタヌキに出くわすことがあります。おどろいて一瞬、息をのむのですが、よく見ると目のまわりが黒い!! オタガイサマですね。(k記)